

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	文観	-	34	農業振興運営事業				☐ 法定受託事務	
所管課	文化観光部 農水課				評価者	農水課長 山戸 貴喜			
一般	会計	款	30	項	05	目	15		
総合計画上の位置付け	分野名	産業振興			施策の方針名		農業・漁業の振興		

1 事業の目的

対象	農業従事者等	意図	農業施策上必要な協議調整や事業を行い、農業経営の安定と農産物の安定供給を図る。
効果	農業経営の安定と農産物の安定供給		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	・農業委員会委員選定 ・農業振興協議会運営 ・農業振興事業助成 ・新規就農者等支援 ・整備計画見直し	・農業振興協議会運営 ・農業振興事業助成 ・新規就農者等支援	・農業振興協議会運営 ・農業振興事業助成 ・新規就農者等支援
予算額（千円）	53,471	33,977	
国県支出金	43,500	28,500	
地方債			
その他	62	73	
一般財源	9,909	5,404	0
当初人員配置数	1.7	2.4	2.4
人件費（千円）	14,513	21,182	0
事業実績	・農業委員会委員選定 ・農業振興協議会運営 ・農業振興事業助成 ・新規就農者支援 ・整備計画見直し		
決算額（千円）	12,354		
国県支出金	3,384		
地方債			
その他	4		
一般財源	8,966	0	0
人員配置実績数	2.4	0.0	0.0
人件費（千円）	19,879	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	補助金相談件数	件	5	⇒	5		
	実績につながる活動	農地相談会の実施、JA主催の会議等での農業者への情報提供、新規就農希望者への情報提供				-		
活2	指標名	JAさがみによる勉強会等実施回数	回	5	⇒	5		
	実績につながる活動	農業振興事業費補助金をJAさがみに交付し、既存の農業者に対し先進事例や優良事例等についての勉強会を開催した。				3,000		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・「鎌倉」、「鎌倉やさい」への地元愛やブランド力 ・地産地消、有機野菜や無農薬野菜などへの関心、需要の高まり ・農地の空き状況
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・補助金相談件数（活動指標1）及びJAさがみによる勉強会等実施回数（活動指標2）は、いずれも令和7年は令和6年と同様の数字となっており、目指す方向として順調に進んでいる。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	営農促進に取り組んだ農業者数（補助金の交付人数）	人	2	↗	2			1
成2	JAさがみ青果物取扱高	千円	87,357	↗	96,715			2
成3								

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・国県の農業への支援の拡大 ・農地の空き状況
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・成果指標1は、令和7年は2件の支援となり目指す方向としては目標を達成した。引き続きニーズ把握と支援メニューの周知に努め、農業者の支援を行っていく。 ・成果指標2は、令和7年は令和6年に比べて上昇したものの、農業経営の安定と農産物の安定供給をより高めるため、今後も成果指標2が高まるよう努めたい。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	・補助金相談件数（活動指標1）が増加していくことで、営農促進に取り組む農業者（成果指標1）も増加していくことが見込まれる。 ・JAさがみによる勉強会等実施回数（活動指標2）を実施していくことで、先進事例等から生産性の向上が図られ、JAさがみ青果物取扱高（成果指標2）の高まることが期待される。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出していない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性		評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ⑤ 予算規模は現状維持とする ☐ ⑥ 予算規模は拡大する ☐ ⑦ 予算規模は縮小する	

課題への対応		結果	具体的な内容	
今後の取組方針（見直し方針）	前年度の新たな課題への対応結果	解決	令和7年度までは、新規就農者向けの支援策だけであったため、既存の農業者向けの支援策が無かったが、令和8年度から新たに既存の農業者向けの支援策を講じる予定である。	
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題	新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性	新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	「鎌倉やさい」は地元で採れた「新鮮で安全、生産者の顔が見える野菜」として、市民の需要が高いことから、「鎌倉やさい」のブランド力の強化を図ることは、本市の農業の安定的な継続のために必要なことである。また、さがみ農業協同組合等の関係団体や農業者と共に取組みを進めていくことが、農業振興を図る上で効果的かつ効果的であるため、今後も本事業を継続していく。		
			上位施策への寄与度	
			A	

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	総農家数（2025年農林業センサスより）								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	110戸	754戸	448戸	1,085戸	1,433戸	497戸	87戸	7戸	577戸
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	県内他市と比較し、本市の農家が少ないため、農業の担い手の確保が求められる。								